健常高齢者における神経心理学検査の測定値：年齢・教育年数の影響

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 原田, 浩美, Harada, Hiromi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/19477

博士論文審査結果報告書

学位授与番号　医博甲第 1785 号

学籍番号

氏　名　原田　浩美

論文審査員

主査（教授）能登谷晶子

副査（教授）生田宗博　印

副査（教授）染矢富士子

論文題名　健常高齢者における神経心理学検査の測定値－年齢・教育年数の影響－

論文審査結果

急速な高齢化社会の到来に伴い、健常高齢者の神経心理学評価値が求められているが、現在施行されている言語性、非言語性の神経心理学検査双方で日本人健常高齢者の年齢と教育年数で階層化した標準データが報告されているものはない。そこで本研究では、年齢と教育年数で階層化した日本人健常高齢者における神経心理学検査の測定値を示すことを目的として、我が国の臨床場面で広く用いられている神経心理学検査 5 種と、著者らが独自に作成した呼称検査について、健常高齢者における成績と年齢、教育年数との関連を検討した。**対象**　日常生活に支障のない 60 歳以上の高齢者 302 名に、本研究の調査協力依頼を行なった。応募者 137 名のうち 123 名(男 32、女 91)に全調査ができた。問診等により対象の健常高齢者は 92 名となり、本対象者を年齢により 4 群に分け、さらに教育年数を 2 群に分けて検討した。**方法**　Mini-Mental State Examination(以下 MMSE)、かなひろいテスト無意味綴問題(以下無意味綴)・物語問題(以下物語)、Trail Making Test part A・part B (以下 TMT-A・B) 、西村式(N 式)精神機能検査の火事物語の直後再生・遅延再生（以下火事物語)、Rey-Osterrieth 複雑図形検査(以下 ROCF)模写・直後再生、300 語呼称検査の 6 種の検査を行った。**結果**　①年齢別と教育年数別の双方で差があった検査は、かなひろいテスト無意味綴、TMT-A であった。かなひろいテスト物語、TMT-B は年齢別で差があった。②年齢との間にだけ相関があった検査は 300 語呼称検査であった。③年齢別と教育年数別の双方で差がなかった検査は、MMSE、火事物語、ROCF 直後再生であった。健常高齢者の測定値を年齢と教育年数で検討した結果、双方の影響を考慮する必要がある検査はかなひろいテスト、TMT-A・B であることがわかった。また、300 語呼称検査は、結果の解釈において教育年数の影響を考慮する必要はないが、年齢の影響を考慮する必要がある検査であることわかった。年齢や教育年数の影響を考慮する必要はないといえる検査は、MMSE、火事物語、ROCF であることが判明した。健常高齢者の神経心理検査実施にあたっては、以上の点を考慮して実施する必要があることがわかった。なお、本研究では、性別の影響や 80 歳以上の対象者が少ないことなど今後の課題を残しているが、日本人健常高齢者の神経心理学検査成績の報告はまだ非常に少なく、本研究は博士論文に値する意義ある研究である。